

海洋建築部門—研究協議会

関東地震津波の隠された教訓

[資料あり]

9月14日(木) 9:00~12:30 総合研究3号館 共通155室

司会 遠藤龍司(職業能力開発大学校名誉教授)

副司会 長谷部雅伸(清水建設)

記録 寺口敬秀(日本大学)

1.主旨説明 桜井慎一(日本大学)

2.主題解説

①関東地震津波へのアプローチ

濱本卓司(東京都市大学名誉教授)

②相模トラフ津波のメカニズム

村田一城(港湾空港技術研究所)

③当時の津波被災地の状況

星上幸良(日本大学)

④相模湾沿岸の津波対策の現状

鳴原良典(防衛大学校)

⑤海からの総合的支援

増田光一(日本大学)

3.討論 過去の教訓と将来への備え

モデレーター: 矢代晴実(元防衛大学校)

4.まとめ 中西三和(巴技研)

関東大震災の最大の特徴は、甚大な人的被害を出した地震後の広域火災であり、津波被害への関心はこれまで相対的には低かったと言える。本研究協議会の目的は、甚大な地震・火災被害によって隠された関東地震津波の教訓を、東日本大震災巨大津波の記憶と南海トラフ地震津波への備えを念頭に読み取ることである。

主題解説①では、上述した目的に沿って関東地震津波を読み解くためのアプローチを提示し、この後に続く主題解説②～⑤の位置づけを解説する。

主題解説②では、関東地震津波における被害状況の特異性に着目し、同じ相模トラフで発生した過去の地震津波も振り返りつつ、津波被害が局地的に増幅されたメカニズムを解明する。

主題解説③では、関東地震津波により相模トラフ沿岸各地で実際に生じた被害状況を、実地調査および文献調査に基づき整理し、関東地震津波の全体像を浮き上がらせる。

主題解説④では、関東地震津波および東日本大震災巨大津波の教訓が、現在の相模トラフ沿岸の津波防災行政にどのように反映されているのかを調査し、都市型津波対策について考察する。

主題解説⑤では、関東大震災発生当初から横浜港で展開された国内国外の船舶を利用した救急医療、食料補給、宿泊提供などの海上支援の事例を紐解きながら、海からの総合的支援の可能性を検討する。

主題解説に引き続き、討論「過去の教訓と将来への備え」を実施する。主題解説②～⑤で提供される話題に対し、「関東地震津波発生メカニズムは現在の津波想定シミュレーションの想定内か」「関東地震津波の真実は歴史と土地の記憶から蘇えらせることができるか」「相模トラフ沿岸の市町村では東北地方太平洋沿岸で進められた巨大防潮堤建設をどのように捉えているか」「海からの総合的支援は都市型災害の沿岸部における有力な対策として機能し得るか」といった具体的な問いかけを設定し、広く議論したいと考えている。